

国際シンポジウム

「グローバル化時代の初等中等教育を考える ～グローバル人材育成についての日本への示唆～」

1 趣 旨

国立教育政策研究所では、今後求められる資質・能力を効果的に育成する観点から教育課程を構想するプロジェクト研究「教育課程の編成に関する基礎的研究」(平成 21～25 年度)を実施している。この一環として、諸外国の教育課程の基準について、その枠組みや近年の改革動向等の情報収集・整理を目的に JICA 地球ひろばと共同研究を進めている。

グローバル化時代では、価値観や文化、社会や経済の仕組みの違いを活かしながら、協力して地球規模の困難な課題を解決する力が求められている。本シンポジウムでは、このような課題解決力を育成するための初等中等教育の在り方について、関連する分野の第一人者を招聘しパネル・ディスカッションを行うこととした。ご参会された方が自分なりの答えを創ることができるような講演とディスカッションを提供したいと考えている。

2 内 容

以下の二つの視点で本シンポジウムを展開する。

一つ目は、資質・能力概念を通して各国の教育課程全体を整理する視点である。具体的には、代表的な資質・能力概念である「OECD キー・コンピテンシー」や「21 世紀型スキル」など、各国の教育政策における学力観に大きな影響を与えた概念に基づいて、各国が教育課程をどのように改革しているかをパネリストから報告していただく。グローバル化時代をどう捉え、何を教育の最も大事なゴールに位置づけ、それに応じてカリキュラムをどのように作り変えようとしているのか、具体的には、資質・能力(スキル)を教育課程の基準において目標に位置づけるようになった経緯、理由等とともに、その計画や直面する課題、成果の評価のあり方などについて述べていただく予定である。

二つ目は、このような教育課程全体に対して、国際教育や市民教育、持続可能な発展の教育(ESD)といった特定の教育内容がどう位置づくかを手掛かりとして、グローバル社会における教育課程を考える視点である。これらの教育は、これまでの公教育では教科横断的あるいは教科外で行われがちだったが、そこでの学びは一生続く見方や態度の獲得など、確かな手応えを感じるものとされてきた。その拡張的で創発的な学びを初等中等教育の中にどうデザインしていけるかを評価方法も含めて考えることは、教育課程をより豊かなものにし得るだろう。

二つの視点を結びつけながら、グローバル化時代を担う子ども達に地球規模の課題を解決し、新たな課題を見定める力を育成する教育のあり方を考えていきたい。

3 日 程

日時：2013(平成 25)年 8 月 30 日(金) 13:30～17:30

場所：文部科学省 講堂(3階)

言語：日英同時通訳

4 スケジュール：

- ・開会挨拶
- 尾崎春樹(文部科学省 国立教育政策研究所 所長)
- ・基調講演(問題提起)
- 勝野頼彦(文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター長)
「日本の教育課程の現状と本シンポジウムへの期待」
- 芳賀克彦((独)国際協力機構 地球ひろば 所長)
「日本の国際教育の現状と本シンポジウムへの期待」

・パネル・ディスカッション

パネル1：グローバル化時代を生きる資質・能力を育成するための教育課程

- コーディネーター：(パネリスト、コメンテーター、コーディネーター紹介)
- 二宮皓 (比治山大学・比治山大学短期大学部 学長)
- コメンテーター：
- 松尾知明 (文部科学省 国立教育政策研究所 初等中等教育研究部 総括研究官)
- パネリスト：
- Tim Oates (Group Director, Cambridge Assessment / Chair of the National Curriculum Review Expert Panel) (イギリス)
「国際的グローバル人材：コンピテンス、態度、資質、そして『Powerful Knowledge』に関する視点－カリキュラム開発と統制の原則」
- Barry McGaw (Chair, Australian Curriculum, Assessment and Reporting Authority (ACARA)) (オーストラリア)
「汎用的能力 (general capabilities) を基にしたカリキュラムの構想の現状と課題について、また汎用的能力をどのように評価するのか」(仮)
- Lindsey Conner (Associate Professor, Deputy Pro Vice Chancellor, College of Education, University of Canterbury) (ニュージーランド)
「ニュージーランドカリキュラムの実践：そのビジョンと実際」
- ディスカッション、質疑応答

パネル2：グローバル化時代における国際教育の意義と学校現場での国際教育の推進

- コーディネーター：(パネリスト、コメンテーター、コーディネーター紹介)
- 多田孝志 (目白大学人間学部長・教授)
- コメンテーター：
- 山西優二 (早稲田大学 文学学術院 教授)
- パネリスト：
- Frances Hunt (Research Officer, Department Education Research Centre (DERC), Institute of Education, University of London) (イギリス)
「イングランド (イギリス) の学校におけるグローバル教育：政策、実践、インパクトについて」
- Arthur Burch (Former Manager, Global Education Program, The Australian Agency for International Development (AusAID)) (オーストラリア)
「オーストラリアにおけるグローバルシティズンシップの育成」
- (未定)(Partnerships with Canadian Branch, Canadian International Development Agency (CIDA)) (カナダ)
「新たな開発教育援助機関の役割と学校現場における開発教育促進のための方策」(仮)
- ディスカッション、質疑応答

・全体討論パネル1、およびパネル2

・コーディネーターによるまとめ

・閉会挨拶

- 黒川 恒男 ((独)国際協力機構 理事)

4 申し込み方法

<申込方法> 下記URLにアクセスいただき、申込書に記載の上、メールでお申込みください

URL : <http://www.idcj.or.jp/>

<申込締切> 2013年8月23日(金)

<問い合わせ先> 国立教育政策研究所 初等中等教育研究部

総括研究官 白水 始 (shirouzu@nier.go.jp)

5 対象者

文部科学省及び外務省関係者、JICA 関係者、研究者 (本調査研究協力者等)、教員他教育関係者、開発教育系 NGO 関係者 等 (最大 250 名)